

埼玉縣立豊岡實業学校校歌

作詞 千藤 胤明 先生
作曲 平野 主水 先生

(一) 霊峰遠く消えゆきて
古岸に人の影はな
出藍の譽胸に湧く
燃ゆる心の喜びも

夕陽うつる入間川
晚鐘風に響くとき
学徒の窓に灯は一ツ
迎ふか空に二十日月

(二) 壮心光り輝けば
皇恩胸に極れば
時しも昭和七年の
宮の台臨畏みし

培ふ大地の香は優り
感激の裡力あり
秋空澄める霜月に
校輝は榮ゆる永久に

(三) 青空高く春浅し
希望は深き若人が
ゆかしく結ぶ友垣と
高き校風護りつゝ

若草萌ゆる丘の上
時世の流れよそにして
歴史も清き豊岡の
學の路を一筋に

(四) この清流の片はとり
夏炎天の田の水に
共ども落す汗賦
雄かしき男子の意氣氣魄

(五) 群羊守る友あれば
風に濁世の塵棄て
誠を人の道として
耕す人も刈る者も

(六) 友と理想を語りつゝ
産業豊土地肥えて
畑に土の香をかけば
桑の葉蔭に呑むに

(七) あゝ武蔵野に咲く花の
結ぶは五年の春や秋
人生意氣に生くるこそ
輝く御國の光りよは

朝夕の別ちなく
冬烈霜の畑に立ち
絞るも嬉し國の爲め
磨き研かなん鋤鉄を

若木を植うる吾が決
夢に榮刺の影もなし
真理に正判の雲拂ひ
楽しい母校に今日一日

學びてラれし豊岡は
知るや狭山の緑茶を
五穀みのりの兆あり
養蚕を飼ふ人の数あまた

香りてゆかし豊岡の
勉めはたすは誰ならむ
大和男の子の誇りなれ
仰ぎ進まん諸共た